

# ふるさとの昔話

## 石うす挽きながら 背負われて聞いた歌



▲この楽符は富士市少年少女合唱団指揮者の辻村典枝さんに採符してもらいました。



島崎いささん(88歳)  
本市場新田

### 曇らばくもれ箱根山……

「曇らばくもれ箱根山。晴れたとて、お江戸がヨウ見えるわけじゃない。さてはエー。」

この歌の題はとんと知らんが、母親が石うすを挽きながら、よくうたっていた……。わたしゃその母親の背中に負われて聞かされたもんだヨ。

実家は岩本にあつてナ、母親も同じ村の出だから、ずっと昔からこの辺に伝わって来た歌なんだろうヨ。

石うすで挽くものは、どこの家でもそばや小麦。米のご飯はめったに食べられん。そばやうどん、それにすいとんをよく食べたもんだよ。

昔の子供はよく働いたヨ。朝は3時に起きて、桑の葉を採つてお蚕さんの世話をし、6時には田んぼへ行つた。百姓仕事も、今とはくらべもんならんほど大変でな。とにかく体をこき使つた。その上、夜はよなべ仕事だ。男は繩をなつたり、女は針仕事、子供は年寄りの肩たたき。

その駄賃として月に50銭もらうのが楽しみでなあ。はつはは……。

「曇らばくもれ箱根山……。」  
今ではうたう人もおらんようになったが、こうしてたまにうたうと、昔のことが思い出されてのう……。

#### 市民総参加で年末の美化清掃を

富士市をきれいにする市民運動推進連絡協議会の呼びかけで、本年5月30日を中心に行われた全市一斉美化清掃には、332町内から約37,000人の参加が得られました。そこできれいな環境のもとですがすがしい新年を迎えるため第2回の市民美化清掃を実施することになりました。12月12日(日)、雨天の場合は12月19日、には家族揃って参加し、散在ごみの回収に、いい汗を流してみませんか。

—すすめよう ごみの減量・資源化—



## 市立博物館 展示物 紹介

### 鈴木香峰山水画



鈴木香峰は文化5年(1808年)幕臣原権次郎の第三子として生まれました。

32歳の時、吉原宿脇本陣扇屋助次郎の養嗣子として鈴木氏を襲名し、吉原駅長として30余年勤め、その功が認められて

姓氏を称することを許されました。

香峰は、詩・歌を好みましたが、引退後はもっぱら画道に専念し、水墨画に彩色をほどこした山水画は、名声を博し、当時の宮内省にも買上げられました。

彼は、明治18年(1885年)78歳で



病気のためなくなりました。墓は唯称寺(吉原3丁目)にあります。

◀縮図帳表紙

▼縮図帳

